

4. 年表

大槌沿岸センターは、設立 30 周年を迎えた 2003 年 10 月に「東京大学海洋研究所国際沿岸海洋研究センター（旧大槌臨海研究センター） 30 年の歩み 1973～2003」を刊行し、1970 年 3 月の臨海施設懇談会の設置から 2003 年 7 月までの年表を掲載している。本章では、それ以降の 20 年間の国際沿岸海洋研究センターおよび大槌沿岸センターと関連する歴史を示す。また、2011 年 3 月の東日本大震災時の構成員の行動や復旧過程の詳細は国際沿岸海洋研究センター研究報告第 36 号に詳述されており、以下の東京大学機関リポジトリ（UTokyo Repository）よりダウンロードすることができる（<https://repository.dl.itc.u-tokyo.ac.jp/records/2000325>）。

2003	11.6	寺崎 誠が海洋科学国際共同研究センターより国際沿岸海洋研究センター教授に配置転換
2004	2.29	非常勤職員の遠野美緒子が退職
	3.1	佐藤克文が沿岸保全分野助教授として着任（2007.4.1 より准教授）
	3.31	事務職員の藤本修一が岩手大学に転出 非常勤職員の小豆嶋弘一が退職
	4.1	東京大学が法人化 大竹二雄が沿岸保全分野教授として着任，センター主任に就任（2005.3.31 まで） 小坂 規が事務職員として着任 田中まゆ子が非常勤職員として着任
2005	1.1	助手の乙部弘隆が講師に昇進
	1.21	調査船「弥生」竣工
	3.31	田中（ま）が退職
	4.1	大竹がセンター長に就任（2008.3.31 まで） 佐藤（克）がセンター主任に就任（2008.3.31 まで） 田村真澄が非常勤職員として着任
	11.1	非常勤職員の黒沢正隆が技術職員へ異動
2006	3.31	乙部が定年退職 小坂が国立情報学研究所に転出
	4.1	センターの主な教員が担当する新領域創成科学研究科環境学研究系環境学専攻「海洋環境サブコース」が「自然環境学専攻海洋環境学コース」に改組 助手の天野雅男が帝京科学大学に転出 柳沢茂孝が事務職員として着任
	8.1	助手の新井崇臣が沿岸生態分野助教授に昇進（2007.4.1 より准教授）
2007	3.1	福田秀樹が沿岸保全分野助手として着任（2007.4.1 より助

		教)
2007	3.31	寺崎が定年退職
	11.1	道田 豊が沿岸生態分野教授として着任
2008	3.31	技術職員の盛田孝一が定年退職，再雇用 事務職員の福田 仁が岩手大学に転出
	4.1	岩手大学の大森弘光が事務職員として着任 道田がセンター長に就任（2010.3.31 まで） 大竹がセンター主任に就任（2010.3.31 まで）
2009	4.1	平野昌明が技術職員として着任
	10.31	非常勤職員の佐々木富美子が退職
2010	3.31	海洋研究所が中野キャンパスから柏キャンパスに移転 新井が退職 柳沢が教育学部・教育学研究科に転出 道田が海洋科学国際共同研究センター教授に転出，沿岸生態分野兼務教授に就任 田村が退職
	4.1	大気海洋研究所が発足 本センターの教員の定員が教授 1，准教授 2，助教 3 へ変更 共同利用・共同研究推進センター発足 技術職員（黒沢，盛田，平野）が同センター沿岸研究推進室に異動，佐藤（克）が同室長を兼務 川辺幸一が事務職員として着任 伊藤弘恵が非常勤職員として着任 大竹がセンター長に就任（2014.3.31 まで） 佐藤（克）がセンター主任に就任（2013.12.31 まで）
2011	3.11	東日本大震災により被災 柏キャンパスの本所に災害対策本部設置 本センターの教職員 OB を中心とする発起人 15 名（代表：宮崎信之名誉教授）が「沿岸センター災害支援基金」設立．本所関係者や日本海洋学会員ほか関連コミュニティに広く呼び掛けがなされ，5 月末までに 320 件を超える支援
	3.31	盛田が退職 大森が岩手大学に転出
	4.1	白井厚太郎が沿岸生態分野助教として着任 平野が技術職員に異動
	4.8	濱田純一本学総長が本センターの被災状況を視察，東梅政昭大槌町副町長と会談，本学として本センターの復旧を図ることを約束
	4.11	本学に「救援・復興支援室（室長：前田正史理事・副学長）」設置

		同室に「大槌復旧建設班（班長：新野宏所長）」設置
2011	4.20	本所の災害対策本部解散
		本所に「沿岸センター復興対策室および復興委員会」設置
	5.2	大槌町の厚意で提供を受けた大槌町城山の中央公民館の1室に「沿岸センター復興準備室」設置
	5.13	遠野市に本部救援・復興支援室の「遠野分室」設置 沿岸センター復興準備室内に「救援・復興支援室大槌連絡所」設置
		被災した研究実験棟3階に「復興準備室現地事務所」設置
	5.15	研究実験棟3階に電気・水道導入
	5.20	研究実験棟脇に水道導入，仮設トイレ設置
		敷地内および研究実験棟内の瓦礫の撤去開始（5.31まで）
	6月	江川雅子理事をはじめとする本部の協力により，東大基金に「沿岸センター活動支援プロジェクト」設立
	8.22	新調査船「グランメーユ」（フランス語で「大きな木槌」の意味）進水 震災に対応する研究課題を対象とした共同利用外来研究員の追加募集 共同利用・共同研究の外来研究員の受け入れ再開
	9.14	水温自動観測記録装置付きブイを設置し，深度別水温の記録を6ヵ月ぶりに再開
	10月	漁業者を対象に岩礁藻場域におけるアワビやウニなどの磯根資源の被害状況に関する調査報告会を2回開催
	10.1	田中 潔が沿岸生態分野准教授として着任
	10.16	矢口明夫が非常勤職員として着任
	10.27	大槌湾や船越湾における藻場の被害状況と回復過程に関する調査報告会開催
	12月	大槌町の漁業者・小豆嶋勇吉氏から寄贈された船体に東大基金「沿岸センター支援プロジェクト」の支援で購入したエンジンを取り付け，調査船「赤浜」進水
	12.17	大槌町中央公民館においてシンポジウム「三陸沿岸生態系に対する大津波の影響と回復過程に関する研究報告会」開催（大気海洋研究所と大槌町の共催）
2012	1月	文部科学省の海洋生態系研究開発拠点機能形成事業費補助金制度により，東北大学，東京大学大気海洋研究所，海洋研究開発機構の3機関を中心に「東北マリンサイエンス拠点形成事業－海洋生態系の調査研究－」開始（2021.3.31まで）
	2月	コンクリート水槽3個復旧 FRP水槽2個，温水シャワーユニットおよび屋外物置設置
	3月	「東京大学と大槌町との震災復旧及び復興に向けた連携・協力に関する協定書」調印

2012	4.1	「生物資源再生分野」設置
	5.1	河村知彦が生物資源再生分野教授として着任 松野康子が柏勤務の非常勤職員として着任
	7.16	大槌町中央公民館にてシンポジウム「大槌の復興から世界へひろがる海洋研究－東北マリンサイエンス拠点づくりに向けて－」開催
	9.16	広瀬雅人が生物資源再生分野特任助教として着任
	10.1	西部裕一郎が沿岸生態分野特任准教授として着任
	10.17	調査船「チャレンジャー」進水
	12.1	早川 淳が生物資源再生分野助教として着任
	12.3	新研究実験棟・共同利用研究員宿泊棟の建設に向けた「国際沿岸海洋研究センター建設ワーキンググループ」の第1回打ち合わせ開催（第1期は2013.8.29まで）
	12.16	北川貴士が生物資源再生分野准教授として着任
2013	2.28	矢口が退職
	3.31	川辺が文学部・人文社会学系研究科に転出 松野が退職
	4.1	三上 匠が事務職員として着任 岩手大学の大森が事務職員として着任
	4.16	鈴木貴悟が技術職員として着任
	5.13	小倉真美が柏勤務の非常勤職員として着任
	6.30	非常勤職員の東屋幸枝が退職
	7.1	倉本菜緒実が非常勤職員として着任
	10.5	大槌漁港にて東北海洋生態系調査研究船「新青丸」の完成披露一般公開開催
	10.12	中央公民館にて大気海洋研究所公開講座「大槌の海は今!？」開催
	11.1	研究実験棟3階の改修工事着工（2014.2.15 竣工）
	11.12	調査船「弥生」竣工式開催
	12.31	佐藤（克）が行動生態計測分野教授に転出，沿岸保全分野兼務教授に就任
2014	1.1	河村がセンター主任に就任（2014.3.31まで）
	1.9	実験水槽棟2の建設工事着工（2014.3.27 竣工）
	3.31	大竹が農学生命科学研究科教授に転出 技術職員の黒沢正隆が定年退職，再雇用
	4.1	青山 潤が沿岸保全分野教授として着任 岩間信彦が非常勤職員として着任 河村がセンター長に就任（2019.3.31まで） 青山がセンター主任に就任（2022.3.31まで）
	8月	大槌町の広報誌「広報大槌」にて「おおつち海の勉強室」の連載開始（2016.3まで）
	9.3	蓬萊島突堤における海上風速計測を2年6ヵ月ぶりに再開
	9.13	東北海洋生態系調査船「新青丸」が初めて大槌漁港に着岸

		新青丸入港記念講演会開催（大槌町，東京大学大気海洋研究所，海洋研究開発機構の共催）
2014	9.14	大槌漁港にて「新青丸」の一般公開開催
2015	1.26	実験水槽棟 1 の建設着工（2015.3.31 竣工）
	3.31	大森が岩手大学に転出 伊藤が退職
	4.1	佐藤光展が事務職員として着任
	7.18	震災後初の一般公開「海を知ろう！海で遊ぼう！」開催
	10.28	新研究実験棟・共同利用研究員宿泊棟の設計業者がワダスタジオ一級建築士事務所から株式会社類設計室に変更， 「国際沿岸海洋研究センター建設ワーキンググループ」の 打ち合わせ開催（2017.6.21 解散）
2016	2.1	福田が沿岸保全分野准教授に昇進
	3.31	三上が工学部・工学系研究科に転出
	4.1	菊地眞悟が事務職員として着任
	4.28	係船場の復旧工事着工（2017.5 竣工）
	7.16	一般公開「海を知ろう！海であそぼう！」開催
	10.18	岩手日報のジュニアウィークリーにて，本センターや関連 する研究者の活動を紹介する連載「さんりく 海の勉強 室」開始（2020.12.15 まで月 1 回，全 51 回）
	12.21	係船場のクレーンの設置工事着工（2017.7.31 竣工）
	12.6	新研究実験棟・共同利用研究員宿泊棟の建設工事着工 （2018.2.28 竣工）
2017	3.1	峰岸有紀が沿岸保全分野助教として着任
	3.31	黒沢が退職 非常勤職員の岩間みな子が退職 広瀬が北里大学に転出
	4.1	大久洋美が非常勤職員として着任
	7 月	東京都東久留米市在住の小日向明・恵美子夫妻より，現代 アート作家・大小島真木氏の作品寄贈の申し出
	7.16	赤浜地区の「ひょうたん島祭」と同時開催で一般公開「海 を知ろう！海で遊ぼう！」実施
	9.3	西部が浮遊生物分野准教授として転出，沿岸生態分野兼務 准教授に就任 大久が退職
	11.1	八幡早苗が非常勤職員として着任
2018	1.1	岡谷さちえが非常勤職員として着任 及川さなえが非常勤職員として着任
	2.1	野畑重教が沿岸保全分野特任助教として着任 大土直哉が生物資源再生分野特任助教として着任
	2.13	旧研究実験棟の什器類の新研究実験棟へ移設作業開始 （2.21 まで）

2018	3.31	佐藤（光）が岩手大学に転出
	4.1	佐藤克憲が事務職員として着任 本学社会科学研究所と東京大学未来社会協創推進本部登録プロジェクト「海と希望の学校 in 三陸」開始 「沿岸海洋社会学分野」設置
	4.16	旧研究実験棟等の施設群解体開始 その敷地に先に竣工した実験水槽棟 1 および 2 を除く、海水ポンプ室等の飼育実験エリア施設群の建設着工 (2019.3.29 竣工) 大小島氏が新研究実験棟エントランスにおいて、天井画「Archipelago of Life 生命のアーキペラゴ」の制作を開始 (4.29 まで)
	4.22	赤浜地区の住民を対象に、新研究実験棟・共同利用研究員宿泊棟ならびに制作途中の天井画の特別公開「東大の新センターでちょっと芸術に触れてみる」開催
	5.31	小倉が退職
	7.20	新研究実験棟完成内覧会および祝賀会開催
	7.21	新研究実験棟の施設見学会として一般公開開催
2019	1.1	北川が沿岸海洋社会学分野准教授に配置転換 白井が大気海洋分析化学分野准教授に転出、沿岸生態分野の兼務准教授に就任
	3.31	河村が資源生態分野教授に転出、生物資源再生分野の兼務教授に就任 岩間（信）が退職
	4.1	浮遊生物分野教授の津田 敦が沿岸保全分野兼務教授とセンター長に就任（センター長は 2020.3.31 まで）
	7.19	赤浜地区の「ひょうたん島祭」と同時開催で一般公開「ひょうたん島にカメが来た！」実施（以降はコロナ禍となり一般公開実施を見送り）
	9.30	大土が筑波大学に転出
2020	4.1	大土が沿岸生態分野助教として着任 青山がセンター長に就任
	4.13	調査船「ESPERANZA」（スペイン語で「希望」の意味）進水
	6.30	宮古市立重茂中学校と「東京大学大気海洋研究所国際沿岸海洋研究センターと宮古市立重茂中学校との間における連携協力の推進に係る協定書」締結、海や地域に関する定期的な授業を 3 年間のカリキュラムに導入
2021	1.31	峰岸が生物遺伝子変動分野准教授に昇進、引き続き、本センターを本務地として勤務
	3.31	野畑が転出
	4.1	及川が事務職員に異動

		岩手日報ジュニアウィークリーの連載「さんりく海の勉強室」をまとめた書籍「さんりく海の勉強室」出版
2021	4.18	展示施設「おおつち海の勉強室」開室記念式典開催
	4.20	岩手日報ジュニアウィークリーにて、三陸地方における地域差を紹介する連載「メーユのさんりくゼミナール」開始（2022.8.20 まで月1回、全17回）
	5.1	平林頌子が沿岸保全分野講師として着任
2022	3.30	釜石市、大気海洋研究所、社会科学研究所の間で「釜石市、国立大学法人東京大学大気海洋研究所及び国立大学法人東京大学社会科学研究所との連携協力の推進に関する覚書」締結
	4.1	大気海洋研究所の組織再編 国際沿岸海洋研究センターは国際連携研究センターと合併し「国際・地域連携研究センター」発足 旧国際沿岸海洋研究センターは「地域連携研究部門」となり、「大槌研究拠点」と「奄美研究拠点準備室」に再編 分野廃止 大槌研究拠点の略称「大槌沿岸センター」制定 平林が奄美研究拠点準備室に配置転換 平林以外の教員は大槌研究拠点に配置転換 福田がセンター主任に就任
	9.1	早川が奄美研究拠点準備室准教授に昇進
	9.22	岩手日報ジュニアウィークリーにて、研究者による取り組みに加え、高校生の活動等も紹介する連載「メーユのさんりくゼミナールプラス」開始（2023.8.29 まで不定期、全9回）
	3.31	北川が大学院新領域創成科学研究科教授に転出
	4.1	藤井賢彦が大槌研究拠点教授として着任 道田、津田、河村、白井が兼務教員を退任 海洋底科学部門准教授の山口飛鳥が大槌研究拠点兼務准教授に就任
	11.17	本センター設立50周年記念式典および祝賀会開催
